

# コミュニケーション支援に関する地域コミュニティの役割

## － 楽暮プロジェクトの活動から －

竹島 久志\*

「楽暮（らぼ）プロジェクト（宮城に AAC と AT を広める会）」は、障害等のためにコミュニケーションが難しい方の支援方法や支援機器に関する情報交換の場として、宮城県仙台市を中心に活動する地域コミュニティである。会員は日常的に障害者と接している方々であり、様々な職種・立場の方が参加している。メーリングリスト、月例会、イベント（年 1 回）を通じて支援方法や支援機器についての情報交換を行っている。これまでの活動の評価と今後の活動の参考のために、メーリングリスト参加者を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、楽暮プロジェクトに強く期待していることは、「異なる職種（立場）の関係者との結びつき」、「支援方法等に関する相談の場」、「支援方法・支援機器等に関する情報提供（情報交換）」であることが分かった。コミュニケーション支援は、多様な立場の方々の協働作業が必要といわれている。楽暮プロジェクトのような地域コミュニティは、関係する情報を提供（情報交換）すると共に、様々な立場（職種）の人々を結びつける役割を担っていると考えられる。

### 障害者、コミュニケーション支援、地域コミュニティ、アンケート、AAC、AT

#### 1. はじめに

「楽暮（らぼ）プロジェクト（宮城に AAC と AT を広める会）」は、障害等のためにコミュニケーションが困難な方の支援方法や支援機器に関する情報交換の場として、宮城県仙台市を中心に活動している地域コミュニティである。2005 年 3 月から活動を始め、現在 4 年目である。主な会員は、日常的に障害者と接している方々であり、様々な職種・立場の方々が参加している。メーリングリスト、月例会、イベント（年 1 回）を通じて支援方法や支援機器についての情報交換を行っている。

楽暮プロジェクトのようなコミュニケーション支援に関心のある支援者の地域的な集まりの役割や意義はなんだろうか。また、会員は何を求めて本会に参加しているのだろうか。これらを確認するために、メーリングリスト参加者を対象としたアンケート調査を実施した。本報告では、まず楽暮プロジェクトについて紹介し、次にアンケート調査の結果を元に、このような地域コミュニティの役

割や意義について考察する。

#### 2. 楽暮プロジェクトの紹介

##### 2.1 活動内容

楽暮プロジェクトの主な活動は、メーリングリスト、月例会（月 1 回）、イベント（年 1 回）である。

メーリングリストに投稿される内容は、月例会やイベントの案内、研修会の案内、支援機器の紹介等が多い。月平均のメッセージ数は 32.8 通である。

月例会は、毎月第 1 土曜日または日曜日の午後 1 時 30 分から 3 時間程度開催している。そこでは、実践報告や支援機器の紹介などの各種情報交換をする会と、スイッチ製作やおもちゃの改造をする工作会を実施している。会場は、東北大学または仙台電波高専を利用している。

イベントは、これまでに 4 回実施した。図 1 に、2007 年のイベントのプログラム概略を示す。講演者は、著名な外部講師をお願いする

他、地元の方（会員）にもお願いしている。企業セミナーは、通常の展示中には十分に伝えられないこと（開発の意図、導入事例など）を話していただくために設けている。情報交換会では、参加者の組織紹介または自己紹介を実施し、参加者相互の人脈形成に役立てることを狙っている。

- |  |
|--|
| <p>第4回楽暮プロジェクト・イベント<br/>(2007年9月2日 10時～16時)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. セミナー1：小松敬典氏<br/>(東京都立光明養護学校)</li> <li>2. 機器展示1 (7件), 昼食</li> <li>3. 企業セミナー 2件</li> <li>4. 情報交換会 (参加者全員自己紹介)</li> <li>5. 機器展示2</li> <li>6. セミナー2：伊藤洋子氏<br/>(たけくまこどもことばの教室)</li> </ol> |
|--|

図1：第4回イベントのプログラム概要

この他に、ホームページ<sup>1)</sup>による情報発信も会の活動として実施している。また、2008年3月にはコミュニケーション支援に関する実践報告会を実施し、その際の資料を冊子（楽暮プロジェクト活動報告書 Vol. 1）にまとめた。

## 2.2 会員

会員には、月例会に参加する会員（年会費1,000円）とメーリングリストに参加するメール会員（無料）がある。会員、すなわち年会費支払者の人数は、2005年度～2007年度のいずれの年度でも24名であった。メール会員は2008年5月現在で82名（内4名はメール配達不能のため停止中）である。

図2にメール会員の職種の割合を示す。特別支援学校教員やリハビリテーション専門職（OT, STが中心）が多いが、大きな偏り無く関係する職種・立場の方々が参加している。

## 3. アンケート調査

楽暮プロジェクトのこれまでの活動の評価とこれからの活動の参考のために、アンケート調査を実施した。アンケートは楽暮プロジェクトのメーリングリストを通じて依頼し、メールで回答を得た。アンケート調査の対象者

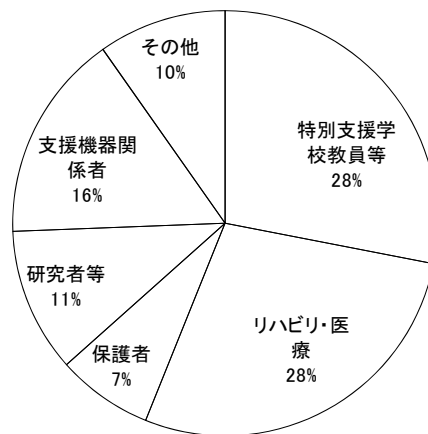


図2:メール会員(82名)の職種割合

は、メール会員82名中配送停止中の4名と筆者を除いた77名である。回答期間は、依頼メールの発送日を含めて19日間である。アンケート全文を付録1に示す。

### 3.1 回答者

回答者数は23名であり、調査対象者に対する回答割合は30%である。回答者の職種割合を図3に示す。半数以上がリハビリテーション専門職および医療関係者を占め、図2に示すメール会員の職種割合とはずれてしまった。これを踏まえて回答を分析する必要がある。

回答者のイベント(4回開催)への参加状況は、1回以下が8名、2回以上が15名であった。回答者の月例会への参加状況は、5回以下が13名、6回以上が10名であった。回答者に、イベントや月例会への参加頻度の偏りはあまり無いといえる。

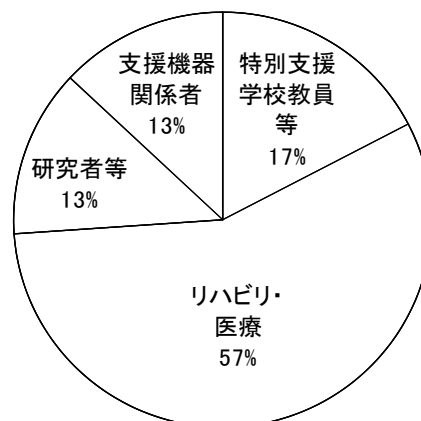


図3:アンケート回答者(23名)の職種割合

### 3.2 役に立ったこと

問2では「これまでに楽暮プロジェクトが役だったこと」を記入してもらった。代表的な回答を以下にまとめる。

- (a)メーリングリストについて
  - ・イベントや支援機器の情報を入手できた。
  - ・関係組織等の研修会等の案内ができた。
- (b)月例会について
  - ・異なる職種の方と知り合えた。
  - ・異なる職種の実践が参考になった。
- (c)イベントについて
  - ・著名な方の講演を聞くことができた。
  - ・地元で活躍されている方の実践を知ることができた。
  - ・支援機器の実物に触れることができた。
- (d)工作会について
  - ・工具、場所を借りることができた。
  - ・必要な材料をそろえてもらった。

### 3.3 期待すること

問3として「楽暮プロジェクトに期待すること」を17項目に分けて、「期待しない」, 「期待する」, 「非常に期待する」の3段階で回答してもらった。図4に、回答の集計結果を示す。図中の評価点は、「期待する」を1点, 「非常に期待する」を2点として集計したものである。

### 4. 考察

図4を見ると、会員が楽暮プロジェクトに強く期待していることは、

1. (g)異なる職種（立場）の関係者との結びつき
  2. (c)支援方法に関する相談の場
  3. (i)支援方法・支援機器の情報提供（情報交換）
- であることがわかる。

会員は、コミュニケーション支援に関する相談の場や情報を求めており、その際に、自分とは異なる職種の知識に期待していると思われる。第3.2節で示した「役だったこと」の回答の中に、「異なる職種の方と知り合えた。」, 「異なる職種の実践が参考になった。」等の記述があることから、このことの必要性が伺える。コミュニケーション支援は、多様な立場の方々の協働作業が必要といわれている。異なる職種の関係者を結びつけることは、楽暮プロジェクトの大きな役割の一つといえる。

### 5. まとめ

楽暮プロジェクトのこれまでの活動の評価と今後の活動の参考のために、アンケート調査を実施した。その結果、楽暮プロジェクトに強く期待していることは、「異なる職種（立場）の関係者との結びつき」, 「支援方法等に関する相談の場」, 「支援方法・支援機器

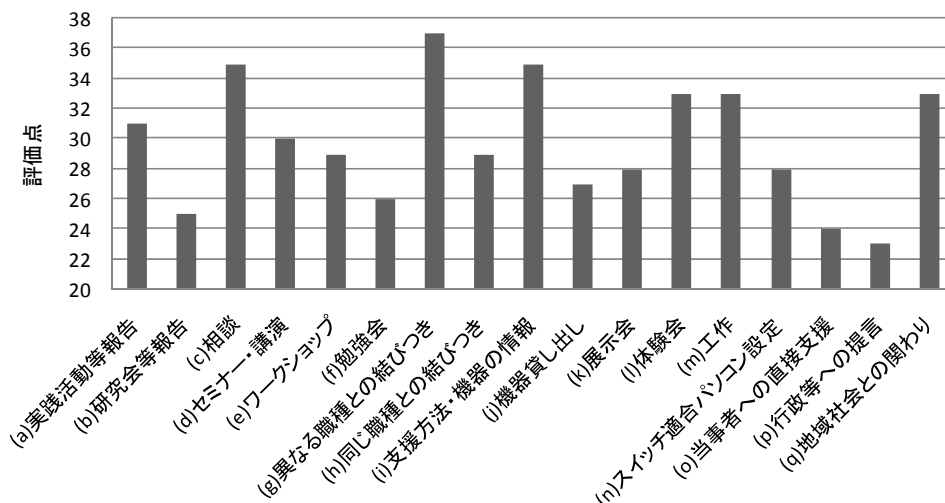


図4: 会に期待すること（問3）の評価点：

評価点は、[期待する]を1点, [非常に期待する]を2点として合計した。

等に関する情報提供（情報交換）」であることが分かった。楽暮プロジェクトのようなコミュニケーション支援に関する地域コミュニティは、関係する情報を提供（情報交換）すると共に、様々な立場（職種）の人々を結びつける役割を担っていると考えられる。

## 参考

### 1) 楽暮プロジェクトのホームページ

<http://www.geocities.jp/rabopj/>

## 付録 A：アンケート全文

楽暮プロジェクトの活動に関するアンケート

楽暮プロジェクトのこれまでの活動の評価と今後の活動の参考とするため、以下の問いにご回答ください。

本アンケートの結果は、楽暮プロジェクトホームページで公表する他、研究会・論文等で利用する場合があります。その際、本アンケートの結果は、統計的に処理し個人の特定ができないように配慮します。

### 【選択肢の選択方法】

該当する選択肢を残して、該当しない選択肢を削除してください。選択肢に無い回答をしたい場合は、直接記入してください。

[問 1] あなたについて教えてください。

(a) あなたの職種・立場 ※複数選択可

1. 養護学校等教員 2. 言語聴覚士 3. 作業療法士 4. 理学療法士 5. 音楽療法士 6. 医師 7. 看護師 8. 保育士 9. 当事者 10. 当事者の家族等関係者 11. 障害者施設等職員 12. 支援機器等取り扱い業者 13. 支援機器等開発者 14. 研究者 15. 学生 16. ボランティア 17. その他 ( )

(b) 楽暮プロジェクト・イベントへの参加回数。 ※これまで4回開催

1. なし 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回

(c) 月例会への参加頻度 ※これまで30回開催。

( )内は目安。

1. 参加したこと無い
2. 数回参加した (1回から5回程度)
3. ととき参加する (6回から19回程度)
4. よく参加する (20回程度以上)

[問 2] これまでに楽暮プロジェクトの活動・存在があなたにとって何らかの役に立ったことがありますか。役立ったことがある場合は具体的に教えてください (複数例提示可)。以下の活動ごとに回答してください。

(a) メーリングリスト

1. 特にない 2. 役立った [役立った例]

(b) 月例会

1. 特にない 2. 役立った [役立った例]

(c) イベント

1. 特にない 2. 役立った [役立った例]

(d) 工作会

1. 特にない 2. 役立った [役立った例]

(e) その他役に立った例がありましたら以下に簡単にご記入ください。

[問 3] あなたが楽暮プロジェクトに期待すること (これまでにやっていないことを含めて) を教えてください。以下の項目についてご回答ください。回答に際して希望や補足等がございましたら、自由にご記入ください。

(a) 実践・研究・活動等報告の場

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(b) 研究会、学会、会議、研修会等への参加報告の場

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(c) 支援方法等に関する相談の場

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(d) 講演会・セミナーの開催

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[希望講演者・内容]

(e) ワークショップ・研修会 (講師あり) の開催

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[希望研修内容]

(f) 勉強会 (講師なし) の開催

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[希望勉強内容]

(g) 自分と異なる職種 (立場) の関係者との結びつき

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[結びつきたい職種・立場]

(h) 自分と同じ職種 (立場) の関係者との結びつき

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(i) 支援方法・支援機器等に関する情報提供 (情報交換)

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[種類・分野]

(j) 支援機器類の貸出事業

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[希望貸し出し機器]

(k) 支援機器類の展示会

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[支援機器の種類・分野]

(l) 支援機器類の試用・体験会

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[支援機器の種類・分野]

(m) スイッチやおもちゃの改造等の工作

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[希望工作物]

(n) スイッチ適合やパソコン設定の直接支援

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(o) 当事者への直接支援活動

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

(p) 行政・政治・社会に向けた提言等の発信

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[提言等の内容]

(q) 地域社会との積極的な関わり

1. 期待しない 2. 期待する 3. 非常に期待する

[関わり方]

(r) その他楽暮プロジェクトに期待することや

やって欲しいことがありましたら、自由にご記入ください。

以上、ご協力ありがとうございました。